

平成28年度 第1回多摩区地域福祉計画推進会議 会議録

会議の概要

開催日時	平成28年6月22日（水）14時から16時まで	
開催場所	多摩区役所6階 防災センター事務局室	
出席者の氏名	委員	柴原君江（田園調布学園大学名誉教授） 有北いくこ（NPO法人 ままとんきっず理事長） 青木義明（多摩区食生活改善推進員連絡協議会 会計監査） 清水伊都子（菅第1地区民生委員児童委員協議会 副会長） 山口正芳（区民委員） 初田温子（区民委員）
	事務局	塚本和秀（多摩区役所保健福祉センター副所長） 日向幸雄（企画課長） 田中勝彦（生涯学習支援課長） 清澤秀昭（高齢・障害課長） 新井久爾子（保育所等・地域連携課長）
		中村健（多摩区医師会会長） 白石大樹（自立支援協議会） 古谷欣治（多摩区町会連合会副会長） 原田知治（多摩区社会福祉協議会会長） 森本千恵美（区民委員） 岡本次郎（多摩区老人クラブ連合会副会長） 菅野麻美（太陽の園地域包括支援センター長） 川澄晶子（多摩区社会福祉協議会地域課長）
欠席委員	齋藤俊啓（保健福祉センター所長）	
内容	1 開会 2 議事 （1）第4期多摩区地域福祉計画の主要な取組 平成28年度の取組計画 （2）地域包括ケアシステム推進に向けた「庁内外の多様な主体との情報共有/意見交換の仕組み」について 3 その他	
傍聴人の数	1名	
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4期多摩区地域福祉計画 平成28年度の主要な取組について</li> <li>・「たまネット vol17」</li> <li>・平成28年度精神保健福祉連絡会議講演会</li> <li>・平成28年度多摩区こども総合支援連携会議 年間予定</li> <li>・多摩区子ども・子育て支援活動報告書</li> <li>・平成28年度地域包括ケアシステム推進に向けたモデル事業</li> <li>・「パサージュ・たま 第3号」</li> <li>・平成28年度多摩区こどもの外遊び交流事業 年間予定</li> <li>・「もっと外で遊ぼう」</li> <li>・多摩区こどもの外遊び交流事業イベントチラシ</li> <li>・多摩区みんなの公園体操、いきいき体操、健康ウォークについて</li> <li>・多摩区地域福祉計画推進会議開催運営等要綱</li> </ul>	
	<p>【冊子】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第4期多摩区地域福祉計画（完全版・概要版）</li> <li>・川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョン（概要版）</li> </ul>	

議事要旨

発言者	発言要旨
塚本委員	第1回地域福祉計画推進会議 開会の挨拶
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新委員の紹介及び出席状況</li> <li>・会議公開のお知らせ</li> <li>・資料の確認</li> <li>・柴原委員を座長とする案の提示</li> </ul>
委員全員	異議なし
事務局	進行を柴原委員に願います。
<b>議事（1） 第4期多摩区地域福祉計画の主要な取組について</b>	
事務局	<b>【地域包括支援センター連絡会議・地域ケア推進会議について説明】</b>
事務局	何か質問はあるか。
岡本委員	最近、地元と地域包括支援センター間での連絡が少ない。区内には7つの地域包括支援センターがあるが、それぞれに温度差がある。宿河原の地域包括支援センターは、4～5年前まで年1回程度町内会・民生委員・老人クラブ等と打合せをしていたが、最近は行っていない。区役所としてどのように考えているのか。
中村委員	地域包括支援センターを管轄しているのは区役所なので話を聞きたい。
事務局	地域支援担当と地域包括支援センターで会議を行っている。今後、センターの特性や活動内容を把握していきたい。地域包括支援センターの機能強化も目的としていきたい。
白石委員	地域支援担当で実際の活動や関係機関と連携した取組などの実績があれば教えてほしい。
事務局	具体的なサービスが分かれば、高齢・障害課などの所管部署を案内するなどの対応をし、どのようなサービスが受けられるか分からない相談者に対しては、地域支援担当の地区担当が話を伺い専門機関等に繋げる活動をしている。
中村委員	市・区役所間での調整が大半なのか。事業所に繋げたケースはあるのか。
事務局	個々に様々な問題を抱えている家庭があり、地区担当の職員が話を聞き、必要な制度や機関を紹介する。
中村委員	専門機関に繋いだ方が早いケースがあるのではないかと。
菅野委員	4月から地区担当職員と打合せを行い、同行訪問を行いサービスに繋げた事例が何件かある。高齢・障害課とも連携している。
柴原委員	様々な相談場面で適切な対応を図る必要がある。他に意見はよいか。
森本委員	新たな体制で、子どもから高齢者まで幅広い範囲を対象とした事業を行うが、資料にある「課題抽出や検討」を行った後、区民にどのような形でフィードバックするのか。
事務局	<p>子どもに関しては、実態調査を行い地域の活動などと併せて、子ども総合支援連携会議において子育て機関に課題等を報告し、区で発行している「たまっこプラン」に明記し広く区民に公表している。また、区民・NPO法人・機関等が委員を務める庁内の各会議で共有し、各委員の母体組織にフィードバックをお願いしている。</p> <p>その他、区の計画などでも公表しているが、区民を集め説明の機会を設けることはしていない。</p>
森本委員	子どもから高齢者まで含んだ情報提供はないのか。

発言者	発言要旨
事務局	来年度以降、当会議に地域に密着した情報共有を行う第2階層の会議ができれば、その中で対応していきたい。
柴原委員	他になにか。特になければ先に進めてよいか。
事務局	<b>【多摩区地域自立支援協議会及び多摩区精神保健福祉連絡会議について説明】</b>
柴原委員	メンタルヘルスの対象は。多摩区特有の問題ではなく、子どもを対象にしているということによいか。
事務局	よい。
柴原委員	他に質問がなければ先に進めてよいか。
事務局	<b>【多摩区子ども総合支援連携事業/多摩区地域包括ケアシステム推進事業について説明】</b>
山口委員	地域包括支援センター連絡会議/地域ケア推進会議と多摩区地域包括ケアシステム推進事業の違いが分からない。名称も似ている。
事務局	地域包括支援センター連絡会議/地域ケア推進会議は、高齢者を中心とした地域包括支援センターとの連絡会議で、高齢者を視点とした地域づくりに関する会議である。多摩区地域包括ケアシステム推進事業は、地域づくりの仕組みを区内で実践するものである。
山口委員	多摩区地域包括ケアシステム推進事業において、地域包括支援センターと連携しているのであれば、その情報を地域にフィードバックしてほしい。
柴原委員	検討してください。
中村委員	多摩区地域包括ケアシステム推進事業をこの表の中に入れるのは無理があるのでは。この事業は、表にある全事業を包括するものである。なぜこのような似た事業名にするのか。今回の組織変更で何が変わり、区民にとって何が良くなったのか。区役所に電話しても、担当部署までたらい回しにされることもある。
事務局	地域みまもり支援センターの地区担当がコーディネーターとなり、その人に合った部署・サービスを案内することができる。どこに相談したらよいか分からない場合は、地域みまもり支援センター（地域支援担当地区担当）に連絡してほしい。社会福祉職・心理職など様々な専門職員も在籍している。
初田委員	多摩区地域包括ケアシステム推進事業においてモデル地区を選んだ理由は。
事務局	<p>生田地区（かりがね台地自治会）は初めてのモデル事業であるため、ある程度地域活動の土壌がある地区を選んだ。また、職員が共に活動し学べる地区を選定の基準とした。かりがね台自治会は、高齢者の「見守り活動」や「自治会の運営」など理想的な活動をしており、どのように活動しているのか学ばせていただき、他の地区に普及できればと思っている。しかし、こうした自治会にも課題はあると思うので、その解決に向けた取組を共に実施できればと思っている。</p> <p>中野島地区は東京都健康長寿医療センターとの共同事業となっており、同研究所の藤原先生が、従前より中野島で「読み聞かせボランティア」などの活動を行っており、今回、藤原先生から同地区での事業を希望されていることもあり、モデル地区とした。</p>

発言者	発言要旨
初田委員	事業を進めるにあたり参考になるものがあり選定した経緯は分かる。しかし、モデル地区には良い点だけではない。次回のモデル地区の選定には、逆に大変な地区を選ぶことが多く、ものを学ぶことに繋がるのではないかと懸念されている。検討ください。また、健康な人には問題を抱える人を理解するのは大変である。区役所や専門機関を紹介しても受け入れない人もいます。今後、このような対応の難しい人も区役所に繋げてほしい。
事務局	断ることはしない。その人の抱える課題を理解し、適切な専門機関等に繋げていく。
森本委員	モデル地区での活動を区内で展開するにあたり、今後いつ頃を目途に中学校区をカバーするのか。
事務局	<p>地域包括ケアシステムを推進する上で、一つのエリアとして中学校区を目安としている。徒歩30分以内ぐらいのエリアである。多摩区は、中学校区に分けると麻生区が入るといったことがあり、活動する上では、社会福祉協議会や地域包括支援センターの管轄と兼ね合いが取れるエリアが良いと考えた。今回は社会福祉協議会の地区割りを基本とし、登戸・中野島を1エリア、生田を2エリアとした計5エリアを多摩区の地域包括ケアシステムのエリアと考えている。</p> <p>川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョンにあるとおり、平成29年度まで準備を行い、平成30年度から全区で展開をしたい。</p>
森本委員	区民からみて、区役所の会議は多く内容や違いが良く分からない。会議開始にあたり命題を明らかにしてほしい。
柴原委員	結果やその道筋など報告してほしい。
事務局	<b>【パサージュ・たま・多摩区こどもの外遊び交流事業について説明】</b>
柴原委員	質問がなければ先に進めてよいか。
事務局	<b>【多摩区みんなの公園体操・多摩区いきいき体操・地区ウォークについて説明】</b>
岡本委員	公園体操は自主運営に移行したが、その経緯を知りたい。
事務局	公園体操の会場自体はボランティアの自主運営であった。区役所は運営委員会等の支援を行っていたが、10年が経過し各会場の支え合いの土壌が生まれ、組織的にも成熟し地域に定着した。今後は地域包括ケアシステムの推進の観点から、公園体操の支援方法も次の段階に移行する。
岡本委員	自主運営になると誰が責任者として管理するのか問題になる。参加者が減る公園もある。区役所が公園体操から手を引いたと聞いている。
事務局	昨年1年かけて説明をしてきた。これを機に区役所が手を引くことはない。全てに区役所が関わる段階ではないと考えている。もちろん、困りごとなどあれば地区担当に連絡してほしい。
山口委員	自主運営の経緯については、各ボランティアが納得している。運営委員会は委員が止めたいと意見したことにより閉会した。自主運営にあたり地区担当は各公園を年間数回見回ると聞いている。
柴原委員	他に質問がなければ先に進めてよいか。
事務局	<b>【地域福祉啓発事業・地域課題解決につなげる地域人材育成事業について説明】</b>
有北委員	地域福祉啓発事業は、認知症サポーター養成講座や地域包括ケアシステムの紹介DVDを活用した広報が中心となっているが、高齢者を中心に考えているのか。その他の「障害・子ども」などを対象とした事業は予定していないのか。

発言者	発言要旨
事務局	DVDには「子どもの外遊び事業」の内容なども含まれている。高齢者が子育て支援に関わる「こんにちは。赤ちゃん訪問」などの場面も含まれている。地域の方が生き生きと活動している様子を収めている。
有北委員	DVD以外に多世代交流の事業はあるのか。
事務局	この資料には記載していないが、子ども総合支援事業などの取組の中で広報等を行っていく。
有北委員	地域課題解決につなげる地域人材育成事業にある、「多摩区市民活動人材情報ねっと」や「人材養成講座」の成果は。
事務局	「人材養成講座」の過去2年の成果として、受講者が少ないと認識している。今年は広報のあり方を検討したい。また、「多摩区市民活動人材情報ねっと」も登録者があまり増えておらず、基本方針を見直す中で地域で必要としている人材などの見直しを図りたい。 実績としては、「多摩区市民活動人材情報ねっと」の登録個人は20人、団体で10団体となっており、十分な情報提供ができる状況ではないと認識している。
有北委員	登録者の傾向は。福祉関連の登録はあるのか。
事務局	趣味をベースにした登録が多いなど、生涯学習支援の傾向が強い。
<b>議事(2) 地域包括ケアシステム推進に向けた「庁内外の多様な主体との情報共有/意見交換の仕組み」について</b>	
事務局	「庁内外の多様な主体との情報共有/意見交換の仕組み」について説明
中村委員	地域ケア推進会議との違いが分からない。同じような名称の会議が多く重複を感じる。新たな会議体では何を行うのか。地域福祉計画における地域包括ケアシステムの位置づけを明確にする必要があるのではないか。
山口委員	市と同じことを区でも行うということか。区がどのようなイメージを持ち新たな会議を具体化するのが見えない。
有北委員	双方の情報共有が必要である。これまでの会議は、行政の説明が中心で現場の声が出ていない。現場の情報が交換できる機会が必要である。
中村委員	DVDは区のホームページから閲覧できるのか。ユーチューブにアップロードしては。
有北委員	DVDのダイジェスト版が欲しい。
中村委員	会議録の公開が遅い。これまで、1月近くを要している。
事務局	当推進会議委員をベースとした「新たな会議体」を設置することについての方向性はよいか。
<b>議事(3)その他</b>	
事務局	次回の開催日程は、今後改めて調整させていただく。開始時間は午後1時半からスタートとする。
山口委員	次回の報告は、評価のできる内容を提示してほしい。